

【
展
覧
会
】

第21回滋賀県施設・学校合同企画展 ing… ～障害のある人の進行形～



① ちらし画像

ボーダレス・アートミュージアム NO-MA が開館した当初から続く「滋賀県施設・学校合同企画展 ing… ～障害のある人の進行形～」は、今回で21回目を迎えます。

滋賀県内の福祉施設・造形教室等の支援者とNO-MAが実行委員会を組んで展覧会を企画し、21名と1組による作品を展示します。作者や支援者等の今を綴った、現在進行形の表現をご堪能ください。



実行委員会の様子



昨年度の展示風景

展覧会概要

会 期 前期:2024年(令和6年)12月21日(土)～2025年(令和7年)1月26日(日)
後期:2025年(令和7年)2月1日(土)～3月2日(日)

会 場 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA(滋賀県近江八幡市永原町上16)

開催時間 11:00～17:00

休 催 日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始:12月28日(土)～1月3日(金)

※展示入れ替え:1月27日(月)～1月31日(金)

観 覧 料 一般200円(150円) 高大生150円(100円)※中学生以下無料

※障害のある方と付添者1名無料 ()内は20名以上の団体料金

主 催 第21回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会、ボーダレス・アートミュージアムNO-MA[社会福祉法人グロー(GLOW)]

後 援 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

協 力 一般社団法人近江八幡観光物産協会、社会福祉法人しみんふくし滋賀、マエダクリーニング仲屋店

助 成 障害者芸術文化活動支援センター運営費補助金(滋賀県)

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人企画局地域共生部(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)
担当:赤澤・橋本 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2
TEL:0748-46-8100 FAX:0748-46-8228 MAIL:kikaku@glow.or.jp

出展施設

[前期]アトリエひこうきぐも／おうみ福祉会きみいろ／合同会社ふくろう／湖南ダンスワークショップ／
慈円／重症心身障がい者通園施設せいふう／第 2 ももスマイル／能登川作業所／バンバン

[後期]あうとりーち和泉／救護施設ひのたに園／滋賀県立近江学園／滋賀県立信楽学園／信楽青年寮／
社会就労センターあおぞら／障害者支援事業所いきいき／ステップアップ 21／第二出会いの家／
放課後等デイサービスじょいなす

[協力施設]にっこり作業所

[アドバイザー]野原健司(美術家)

みどころ

支援者が実行委員として参加し展覧会を開催

実行委員は約半年間、月に一度の委員会のなかで、お互いに持ち寄った作品を共有、展示方法を検討し、実際の展示設営作業も行いました。作品の魅力を伝える方法を試行錯誤しながらつくられた展示空間となっています。日々の生活の中で生まれた表現の「今」と、その生活に寄り添う支援者の目線を生かした展示をお楽しみください。

紹介テキストも委員が執筆

委員は作者や作品を紹介するテキストを作成しました。年齢や障害の有無などに関わらず、誰にでもわかりやすい情報提供を目的に「やさしい作品ガイド」も執筆しています。

ギャラリートーク&制作公開

各会期初日には作者や支援者などが NO-MA に集まり、「ギャラリートーク&制作公開」を開催します。制作の背景や作品に対する思いを聞いたり、実際に制作する様子をご覧ください。

ワークショップの開催

各会期に展示されている作品の制作を体験できる、常設ワークショップを開催します。前期と後期で様々な制作体験をお楽しみください。

出展者紹介(広報画像用)

【前期】

堀尾敬子(おうみ福祉会きみいろ)

この作品たちは彼女の暇つぶしから始まったものである。朝の出勤から活動まで時間があるため、彼女はいつも朝から仕事をしていた。しかし、もともと絵を描くことや文字を書くことが好きだったため、空き箱や段ボールを使って、「自由に絵を描いてみたら？」ということで、この作品たちは生まれたのである。

作品それぞれに個性があり、また使用しているものも違うことが、この作品の魅力となっている。同じような絵に見えても、描く場所や、描き方はまったく違う。皆さんはその違いに気づけるか？ ぜひとも、彼女のその時の心情も思いながら見てほしい作品である。



②「タイトルなし」 2024 年

宇野武雄(合同会社ふくろう)

いつもニコニコ素敵なお顔の武雄さんは、みんなの人気者。ぬりえ好きで、毎日というほどぬりえをしている。色鉛筆のみで、グラデーションをつけながらされるぬりえは繊細だ。今回の出展にて、白い紙に好きな絵を書いてほしいとお願いすると、たくさんの向日葵を、色鮮やかに描いて、ぬりだした。富士山が爆発したら、色鮮やかな向日葵がいっぱい出てきて、向日葵がたくさん咲いた絵。「向日葵が好きだから、世の中が向日葵でいっぱいになってほしいから、向日葵をいっぱい描いた」と、説明してくれた。



③「向日葵」※一部 2024 年

藤井奏太(慈円)

何ものにも縛られたくない自由を愛する作者。彼の手によって生み出されるモンスターたちも、トイレ型、テレビ型、チェーンソー型などなど、多彩で形式にとらわれない姿をしている。これらのモンスターたちは、駆逐するもの、されるものの関係性であり、作者の世界では、絶えず争い続けている。

制作を進めるにつれ、徐々に戦いは激化。銃やレーザー砲などを模した鋭利なパーツで武装され、個々の戦闘力が高められていく。小さな作品の中に細部まで作りこまれた武装パーツの数々は、繊細で見ごたえのあるものとなっており、取り扱いには細心の注意が求められる。

作者曰く、「俺は壊す気持ちで作っている」。

刹那的な魅力を感じていただきたい。



④「チェーンソーの悪魔」 2023 年

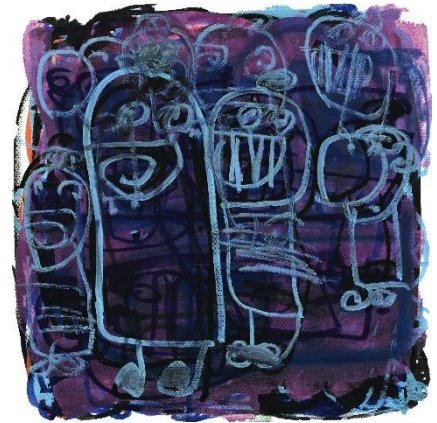
吉川賢(能登川作業所)

幼少期に見たテレビ番組のキャラクターでこぼこフレンズだけをずっと、描き続けている。入所当初は、職員に描いてほしいとアピールし、自分で描くことはなかったが、2年目あたりから、いつしか自分で描くようになった。描き始めると一気に、時間のある限り何枚もノリノリで描く。

でこぼこフレンズのほか、大好きなこいのぼりの竿を描くこともある。絵が仕上がると施設内のあちらこちらの職員に見せに行くのが日課である。

また、お笑いコンビのレギュラーのネタも大好きで、よく「あるある探検隊っあるある探検隊っ!」「西川くん、行くで行くで」と口ずさむ。上の句を言えば下の句が出てくるように、職員が「グラサン取ったら」と言うと「笑われるう!」と返してくれる、50 ネタ程覚えている。

好きなものをとことん愛してやまない彼である。



⑤「無題」2023 年

寺田悠人(第 2 ももスマイル)

『布テープの魔術師』とは、彼のことである。

新聞紙を丸めたり、固めたり、とりあえず恐竜の体のパーツを創る。布テープの色は創りたい恐竜のイメージで選ぶ。口の中の牙や爪、舌など、細部をつまようじを使ってリアル感を出す。布テープを何重にも貼り重ねるというより、貼り固めて立体感を出す。恐竜の体の向きを変え、ジーっと見て、自分のイメージと異なったときは、ぱっさり足や腕を切断。そして、布テープで縫合。そんな作業を繰り返しながら、恐竜を創り上げる。

小学生のころは、段ボールを自分の体に巻きつけたり、剣を作ったりする『段ボールの魔術師』。今年から、陶芸にもチャレンジを始めた。次は、何の魔術師になるのか。成長が楽しみである。



⑥「ティラノザウルス(陶器)」2024 年

【後期】

泉井湊(あうとリーち和泉)

彼の描くコミックは、本編が10巻、そしてスピンオフが15巻もあるかなり壮大な物語である。そのコミックがついにアニメーションになった。彼の構想では、1シーズン25話構成で、シーズンVまでであるとのことだ。今回は、その物語の序章である『エピソード0』をお披露目することとなった。タブレットを自在に操り、彼独自の世界観から生み出されたキャラクターたちは、魅力的に話し、そして動き回っている。アニメーション制作は始まったばかり。すべての物語が完成した暁には、ぜひとも公開を期待しているのだが、彼から許可が出るのか……。今から地道な交渉を続けていこうと心に誓っている。



⑦「サクリーコミックス第一巻」2021年

近藤博文(救護施設ひのたに園)

近藤さんは、ともに制作をする人々と話しながら、いつも楽しく制作に励んでいる。何かを作るとあらかじめ決めていけるのではなく「なにができるかな」「どんなものになるだろう」と楽しみに、できあがった作品を眺め、「〇〇みたいだね」と自然や四季の作品となっていく。

近藤さんが山などの自然をテーマにした作品が多いのは、長崎県五島市出身で、幼いころから自然に囲まれて育ったことが作品として表現されているのだと感じる。

また平面作品に限らず、月に2回の陶芸活動で花瓶やコップ、船など様々な作品を制作している。作品を制作することが好きで、近藤さんは「いろいろやってみたいね。あんま上手じゃないけど」と、微笑みながら話す。



⑧「五島ばらもん凧」2023年

ピーナッツ(滋賀県立信楽学園)

作者は、サメをこよなく愛する16歳の女子児童である。作者の描くサメは、可愛らしく温かみを感じる。この温かみは、作者がサメを想う気持ちからくるものかもしれない。作者が、作品を作り始めたきっかけは、信楽学園の日中活動の1つである文化芸術活動である。楽器を作るプログラム中に、バケツに青いテープをぐるぐる巻きにして、サメがモチーフの太鼓を作成したこと。そこから、創作意欲が湧き、創作活動を開始。作者が大切にしているサメのぬいぐるみのサメ太郎のイス、サメ吉のベッドが完成した。作品を通して作者のサメ愛を感じてほしい。



⑨「サメの太鼓、バチ」2024年

A-make(第二出会いの家)

細い針金を束ねて作った木を第二出会いの家に見立て、その木に集まってくる小さな鶴を職員や利用者に見立てて折った。第二出会いの家は、いろいろな障害や個性を持った人が集まる、心地よい居場所である。彼女にとっての第二出会いの家という作業所の存在の大きさを、この小さな木から感じ取ってほしい。

もう一つの作品「月と太陽と向日葵と…」では、折り紙で作った向日葵を太陽に見立て、その太陽をつなぎ合わせることで三日月を表現した。そして、全体像は「人」を表している。月も人も華やかに見える部分だけでなく、本来あるはずの影の部分にも様々な感情や姿があることを知ってほしい、という思いを作品に込めた。



⑩「Place to be ～居場所～」
2024 年

展覧会関連コンテンツ

ギャラリートーク&制作公開

作品や制作背景について作者・支援者が語ります。また、会場や映像で制作を公開します。

前期:2024 年 12 月 21 日(土)13:30~16:00

後期:2025 年 2 月 1 日(土)13:30~16:00

常設ワークショップ

出展作品の制作を体験できるような常設ワークショップを実施します。

【前期】新聞紙を丸めて恐竜をつくろう！

空き箱で、楽しい気持ちを表現しよう！

【後期】折り紙でチューリップと小さな鶴を折ろう！

あなたの「サメ」を表現しよう！

本展における情報保障について

「さわって楽しめるものがある？」「これが苦手なんだけど大丈夫？」「静かにしなくてもいい？」など、気になっていることや必要なサポートについて、合理的配慮の観点からできるかぎりの情報提供やスタッフによる対応を行います。



詳しくは QR コードから
ご確認ください

第 21 回滋賀県施設・学校合同企画展 ing…

～障害のある人の進行形～

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人企画局地域共生部
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)広報担当宛
FAX:0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

- ① キャプションは、作家名、作品名、制作年、を必ず表記ください。
- ② 作品のトリミング、文字のせはお控えください。
- ③ 本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正、掲載誌(紙)、DVD、CD 等をお送りください。

媒体名:『 _____ 』

種別: TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー

ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日:

御社名:

ご担当者名:

E メールアドレス:

@

(〒 _____)

ご住所:

お電話番号:

FAX:

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

<input type="checkbox"/>	① ちらし画像
<input type="checkbox"/>	② 堀尾 敬子 「タイトルなし」2024 年
<input type="checkbox"/>	③ 宇野 武雄 「向日葵」※一部 2024 年
<input type="checkbox"/>	④ 藤井 奏太 「チェンソーの悪魔」2023 年
<input type="checkbox"/>	⑤ 吉川 賢 「無題」2023 年
<input type="checkbox"/>	⑥ 寺田 悠人 「ティラノザウルス(陶器)」2024 年
<input type="checkbox"/>	⑦ 泉井 湊 「サクリココミックス第一巻」2021 年
<input type="checkbox"/>	⑧ 近藤 博文 「五島ばらもん凧」2023 年
<input type="checkbox"/>	⑨ ピーナッツ 「サメの太鼓、パチ」2024 年
<input type="checkbox"/>	⑩ A-make 「Place to be ～居場所～」2024 年

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人企画局地域共生部(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)
担当: 赤澤・橋本 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2
TEL: 0748-46-8100 FAX: 0748-46-8228 MAIL: kikaku@glow.or.jp